

大津の農業、 2029年の将来像 (コンセプト)

第4章

大津市の農業は、その生産金額で見ると近隣の市の農業に比べてとても小さいです。しかし、生産地と消費地がすぐそばにある大津の環境が、これまで直売所などを通して生産者と消費者をつなぎ、その関係によって市の農業は支えられてきました。「農業」や「農産物」を介した交流がとても生まれやすい環境といえます。

農業をされない方にとって、農業がいつも身近にあり大津市産の農産物がいつでもすぐに手に入ることは、安全かつ安心な食べものを毎日楽しめる喜びになります。また、農業を営む方にとって、身近なまちで農産物が購入・消費される様子を目にすることは、より日々の農作業に活力をもっていそしむ源となることでしょう。そんな農業や農産物を介したつながりが深まれば、もっと大津の農業を大津のみんなで支えることができるのではないのでしょうか。

そこで、わたしたちが目指す2029年の大津市の農業の将来像を、「農ある暮らしがつなぐ湖都のきずな～地域で支える多様な農業、地域でつくる豊かな食～」とし、これを本ビジョンのコンセプトとします。

「農ある暮らし」とは、農業を営むみなさんが日々誇りを持って大津での農業を営む日常と、農のめぐみを楽しむ消費者が日々大津市産の豊かな農産物を手にして身近に農業を感じられる日常の、両方の暮らしを表現する言葉です。

その「農ある暮らし」の実現を通して、生産地と消費地、生産者と消費者がつながることで生まれるきずなを「湖都のきずな」と表現します。

私たち大津に暮らすひとりひとりが、このコンセプトのもとに「地域で支える農業」の実現を目指すことが、本ビジョンの目標です。

さらに、本ビジョンを実現することで、大津市の食料生産基盤を整え維持するとともに、自然景観を守ること、地産地消によるエネルギーの効率化、防災機能の向上、といった大津市全体の活力のアップにつなげることを目指します。

農ある暮らしがつなぐ湖都のきずな

—地域で支える多様な農業、地域でつくる豊かな食—



直売所で

地域で

田んぼや畑で